

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500961		
法人名	株式会社ウェルライブパートナーズ		
事業所名	グループホームさくらプレイス佐々		
所在地	北松浦郡佐々町羽須和免927		
自己評価作成日	令和 4年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和 4年 3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和 4年 3月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

10年以上の職員が1名で、他は3年未満の職員ばかりだが、様々な施設等で経験を積んだ職員がそろっているのいろいろな意見を言いながら入居者様を楽しませることを考えている。コロナ禍で、外出はできないが近くのコンビニへの買い物や散歩、玄関先でのレクや、室内での映画鑑賞、カラオケや、職員の出し物や、元寿司職人をよんでの握りずしパーティなど今まではあまりやってこれなかったことを様々な経験から出し合っている。また、佐々町のグループホームでは唯一看取りを行っている施設であり、主治医の協力のもと行っている。看取りの実績もあり、現在も看取り介護を2名行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは平成16年に開設後、令和2年10月に社名を「株式会社ウェルライブパートナーズ」に、ホームの名称を「グループホームさくらプレイス佐々」とし再スタートした。再スタートに伴い、ホームの理念をあらためて全職員で話し合い、『初心わすべからず』と掲げ何事も初心に返ることが大切であることを念頭に、日々入居者支援に努めている。同一敷地内には別法人が運営する放課後デイサービス事業所が隣接し、デイサービスへ通う子ども達の声が入居者の心を和ませている。コロナ禍収束後には子ども達との交流の場を設ける予定であり、更に入居者の楽しみが増えることが予想される。入居者の終の棲家として看取り支援体制を充実させ、入居者を地域で最期まで見守り続けるというホームの姿勢が入居者や家族の安心感に繋がっている。同社の関連事業所としてサービス付き高齢者向け住宅、介護付き有料老人ホーム等の施設があり、関連事業所との交流や情報交換があり、また、入居者支援に関しても行事への参加等、相互の協力体制を整えている。再スタートから約1年半であるが、今後の更なる取り組みへ大いに期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい職員が増え、理念を理解し明るく仕事ができるように努めている。	ホームの理念「初心わするべからず」は令和2年10月にあらためて全職員で話し合い作成した。何事にも初心に返ることが大切であることを念頭にしている。職員間で理念に沿った支援について話をする機会を設けたり、半年に1回、職員それぞれが自己評価を行い、その後、管理者による評価を実施して理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、実施できていない日が多かった。	現在はコロナ禍で以前のような地域とのつきあいはできていない。尚、年1回、近隣の福祉科高校生がレクリエーションを企画しホームで披露している。ホームも参加している社会福祉協議会主催の会議には町民や近隣事業所職員が参加し交流する機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年通りに受け入れが出来なかったが小学校や中学校に認知症の説明を行う活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動や行事などを書面上で報告し社協や包括、民生委員からの意見を求め、サービスの向上に努めた。	コロナ禍であり、一堂に会した運営推進会議はできないため、書面会議にて行っている。ホームの状況を役場職員や地域包括支援センター職員、民生委員、家族へ報告し、意見や質問を記入できる用紙を同封し、構成メンバーから意見等が返送されている。	書面会議であっても双方向の会議であることが重要であることから、運営推進会議の構成メンバーから表出された意見は具体的に議事録にも反映して議事録として残し、家族や関係者と共有できるよう工夫することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と連絡をとりながら、助言やアドバイスを業務の向上を務めた。	運営推進会議には同町の介護保険係職員や地域包括センター職員が参加している。成年後見制度を利用する入居者への関わりとして、社会福祉協議会、生活保護に関しては、東彼県北事務所の生活保護担当職員と協力体制や連携を図っている。各担当者から質疑やアドバイスを受け、業務の向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	しない・させないを職員が理解しているが、ケアを実施している時に疑問点があれば、管理者に相談をしたり話し合いの場を設けている。社内研修の項目に割り当てている。	ホームでは身体拘束等適正化についての指針や身体拘束廃止マニュアルを作成し、日頃から身体拘束をしない支援に努めている。新人への研修が未実施であった為、管理者は今後新人に対し身体拘束の研修へ参加させる意向である。	身体拘束等適正化指針に基づいた研修プログラムによる定期的な教育(年2回以上)と、新規採用時には必ず身体的拘束等の適正化の研修を実施することが求められており、新規採用者には早期に研修を受講することが望まれる。また、身体拘束廃止マニュアルは全職員が常時確認できる場所に保管し振り返りや身体拘束の理解に繋げることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対し、職員が理解している。何気ない言葉でも心理的や精神的な虐待ではないかと思った時は、その場で職員同士指摘し合い質の向上を目指し虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度に職員の理解不足に差があるが、日常生活自立支援事業に職員が理解しようとしケアを実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や必要書類を家族に説明と同意を得ている。疑問や質問等にも的確に答え理解と納得を得ており改定部分も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議はコロナ過であり、書面で情報を公開し家族に意見を求めている。	コロナ禍により入居者との面会は一部制限している。管理者は家族との面会時や電話連絡時に意見を汲み取っている。職員が対応した際には、聞き取った内容を管理者に報告し、記録に残して他の職員と情報共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が新しく増えた事で、今までよりも密に職員ミーティングやカンファレンスを開催し意見交換の場を設けている。	職員ミーティングでは職員から活発な意見が挙がり、入居者支援への意見や提案が実践に結びついている。ホームでは職員の資格取得を奨励し、バックアップ体制を整えている。希望休や有給休暇の消化もできており、職員個人の事情に応じて職員間で勤務の交代も円滑に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と介護部長で意見交換をし、代表に報告、指示を仰いでいる。また、代表も時々施設を訪問し職員と話す機会を得ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員の教育を行い、社内研修で学ぶ場を設けている。外部研修は実施できていないが、過去の資料などを参考にしながらケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部事業者との関わりが出来なかったがオンライン取り入れ研修や会議に参加し交流をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係者や他事業所に情報の定時に協力してもらい訪問前に本人の情報をリサーチしている。家族様と一緒に改善できることは、事前に協力得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に得た情報で、家族様が困っている事や不安ごとの有無を確認し一緒に解決できることがないかを探り関係性を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じた物品は本人、家族様の希望を取り入れ、添えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする事は理想であるが、限られた事出来る事をして頂くことが現状である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過であり面会が出来ない状況が続いたが広報誌などで本人の状況を報告している。また、緊急時には家族に連絡を取り一緒に支えている。家族からの問い合わせにも対応し状況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援ができなかったが、馴染みの場所の話や近隣の状況を伝え、孤立しないようにしている。また1階2階の入居者と関わり作りしている。	コロナ禍で入居者の外出支援はできていない。尚、職員が本人や家族から得て把握している馴染みの場所の話をしたり、ユニット間で馴染みの関係を築いている入居者が、ユニット間を行き来するなど、代替的な支援に繋げ、馴染みの関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を築く為、体操やレクを行いながら職員が中心に支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所と連携を取りながら、必要に応じて家族に連絡をし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望む生活を聞き取り、家族と相談や家族の思いを受け入れ今後どのように支援していくかを検討している。また困難な時には生活歴をアセスメントし本人や家族が望む生活に近づけるようにしている。	職員は日頃の入居者との会話の中から本人の希望や意向を聞き取り、聞き取った内容を記録に残すとともに他の職員とも情報共有を行っている。必要に応じて聞き取った内容を介護支援計画にも反映している。現在、家族との面会には制限があり、家族への電話連絡時に希望や意向を聞き取り把握するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他事業所と連携を取り、本人の生活歴や性格など情報を得ている。また、事前訪問し、本人と面会をする事で状況を把握している。全職員にも周知し情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体の変化に気付くよう記録を取っている。本人の状況なども記録に残し、全職員で情報を共有している。一人ひとりの能力を維持できるよう、無理強いする事なく、お手伝いなどをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期目標を3か月から6か月にし、実行できるプランを作成している。また、3か月に一回モニタリングやカンファレンスを全職員でし、状況にそぐわない支援となった時は、期日を待たずプランを変更している。家族にも了承を得ており、家族の要望もプランに反映できるようにしている。	ケアプランは3か月に1回の見直し時に、事前に入居者からの意向を把握した内容と、モニタリングやケアカンファレンスを通じてケアプランを作成している。職員がプランに沿った支援を実践できるようケアプラン実行表にチェックを入れ、実践状況と目標達成度を把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に詳しく記入する事を全職員に指示している。少しの気づきにも対応できるように毎朝の申し送りは当日の職員が出席し意見の交換をしている。月一職員会議を開催し、課題や実施状況を共有しプランの見直しや継続すべき事を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員不足が続き、地域の会議に出席出来ていなかったが、社協から会議内容の資料が毎回届き、地域の事業所が取り組んでいる事、情報を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過であり、外出支援が出来なかったが、ホーム内で1階2階合同でイベントをしたりレクなどでいつもと違う入居者と関わる環境や支援活動をしていた。環境整備をし安全に生活が送れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の説明をし、家族や本人がかかりつけ医と選択できるようにしているが、協力医を選択する事が多い。	管理者は入居時にホームのかかりつけ医について家族へ説明し、入居後のかかりつけ医の希望を確認している。尚、多くの入居者がホームの協力医をかかりつけ医としている。入居者は月2回の訪問診療を受けている。歯科や眼科の訪問診療を受けることもできる。専門医療機関への受診には状況に応じて職員が同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や准看護師に相談などをしており、迅速に受診に繋げるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍であり面会が出来ないことから、家族や入院先のMSWから情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針があり、家族に同意を得ている。現在の所、重度化した入居者はいないが、主治医が代替わりをしたため、今後の事も踏まえて主治医と情報を共有している。	ホームの変遷前から看取りの支援を継続して実施している。現在も終末期を迎えた入居者の支援を行っており、家族との段階的な話合いや医師との連携を密にしている。入居者の状態に応じて家族への説明と意向を聞き取り、本人が穏やかで安心した最期を迎えられるよう全職員で看取りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時は管理者や部長の指示を仰ぐ事を徹底している。転倒などリスクが高い入居者に対し、日頃からどのように対応していくかを話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回火災訓練を行っている。消火器などの点検も業者をお願いしている。水害時の訓練は行っていない。備蓄品の点検も行い災害に備えている。	ホームは年2回、夜間想定や消防署立会いのもと入居者を避難させる訓練や水消火器を使用した訓練を実施している。自然災害については水害等、想定される災害の避難訓練計画を立て、実施する予定である。消防等設備について点検後の不良箇所指摘があり、その後改善されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に心掛けるように指導している。職員間で、気付いた時には、その場で注意をし合っている事があり、接遇を理解している。	管理者は接遇マナーに関して、職員の発する言葉が地域特有の方言による強い口調となることが見受けられることを踏まえ、入職時には必ず言葉遣いについて配慮する必要があることを説明するとともに、言葉かけや対応を常に職員間で気づき合えるよう取り組んでいる。職員は入居者の居室に入室する際は本人のプライバシーを尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が何をしたいのか等、本人の行動や言葉を観察や傾聴をして提案しながら、自己決定に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員優先にはしていないが、人手不足であり合わせて頂く事もあるのが現状である。常に本人様主体で行動できるように指導しているが、難しいところである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気を付けている。洋服は職員と服を選んだり訪問カットを利用している。服も汚れまみにしないようにし、ブラシで髪型を整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者に委託している食事の為、買い物や下ごしらえ等の手伝いは少なくなってきた。楽しく食事が出来るように、以前は職員も一緒に食事をしていたが、コロナで職員と別々になってしまったが月行事やおやつ会等を実施し楽しい空間を作っている。	食材は業者に委託している。ムース食は業者に依頼できるが、キザミ食などその他の食事形態はホームで調整し、入居者本人の咀嚼・嚥下力に応じて提供している。行事食は同系列の元調理長であった職員が握り寿司を作り、お祝い御前を提供する等、食事が楽しみなものになるよう工夫を凝らしている。毎月のおやつ会では入居者の笑顔が見受けられ、楽しいひと時を送ることができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員不足により、昼夕は業者の食事を提供している。ムース食も業者で提供している。朝は作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事には口腔ケアをしている。歯科往診により、数人ではあるが、往診で口腔ケアをしている。自分で出来る方はやってもらい、義歯は毎日洗浄剤に付けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し、主治医に相談、了承の上、排便コントロールが出来ている。また、自然排便が促せるように、体操や乳製品などを提供している。	職員は入居者個々の排泄チェックを行い、入居者毎の排泄パターンの把握に努め、声かけ・誘導等個別の排泄支援を行っている。夜間に排泄誘導する際は本人の睡眠状態を優先としていることを家族にも説明している。パッド内の吸収容量を考慮し、夜間は大きいサイズのパッドを使用するなど本人の状態に合わせて調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を確認し、主治医に相談、了承の上、排便コントロールが出来ている。また、自然排便が促せるように、体操や乳製品などを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2から3回入浴できるようにしている。また、本人の希望にそえるように心がけている。	ホームでは週2回以上入浴できるよう日曜日を除いて毎日3名ずつ入浴支援を行っている。入浴拒否や体調不良で実施できなかった場合でも代替日を設けている。職員は湯温や入浴順への拘り等、臨機応変に対応し、入居者が楽しんで入浴できる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢であり、日中は無理をせず、お昼寝が出来るようしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や落薬がないようにダブルチェック、トリプルチェックを実施している。薬の内容が変更になった時は副作用など理解し、記録に残すことをしている。主治医と連絡をとり変化に対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意、不得意な事を把握し、手伝いやレクなどをとうして取り組んでいる。無理強いする事がないように提案している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、戸外に出かける事ができなかったが、天気がいい日には、玄関先でおやつを食べたりしていた。	コロナ禍で以前のような外出支援はできていないが、ホームの敷地にある広い場所で日光浴を兼ねておやつを食べて楽しんだり、近所のコンビニエンスストアまで買い物に行くなど、外気浴に繋げ、入居者のストレス緩和に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族対応でしている。それでも、希望されるのであれば本人や家族に了承を得て会社の金庫で保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は個別に連絡を取っている。掛けてほしいと希望があれば職員がかけ、繋いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備をしているがまだ行き届かないところもあり、時間がある時は取り組んでいこうと思っている。	日勤者を中心として毎日、フロア、廊下、トイレ等の清掃を行い、清潔保持に努めている。入居者が季節の理解ができるよう季節に応じた壁画等を飾り、明るい共有空間となっている。手すり等は次亜塩素酸水を使用して拭き掃除を行い、感染予防対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の席で、入居者同士が話している。時々職員も一緒に会話に加わっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には本人の使い慣れた物や本がある。家族との写真や本人の写真などを飾っている。	居室は以前からの使い慣れた寝具を持ち込んだり、家族の写真を壁に貼る等、入居者が安心して暮らせるよう環境作りを行っている。各居室には空気清浄機を設置して感染対策に取り組んでいる。職員と一緒に居室を掃除する入居者もあり、入居者それぞれが居心地良く安心して生活できるよう個別の支援に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同で使用するトイレや食事のテーブルなど、動きやすい動線を配置している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、覚えやすく現実味があるものを全職員で話し合いをして「初心忘るべからず」に決まった。何事も初心を思い出し、介護を始めたころ、このグループホームに勤務に就いたころ、初めて介護に興味を持った時等、様々な「初心」を忘れず、という思いである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	佐々町自体が、各事業所や、包括、役場と交流ができる環境になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が、社協の評議員を行ったり、他施設の運営推進会議の委員を行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催が難しい時は、書面での意見交換を行い、開催はできるが施設での開催は難しい時は、役場において会議室をお借りして行うこともあった。なかなか書面でのやり取りは、意見がでてこないのも難しいと感じた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や、直接話しをしたりできている。また、運営推進会議等で報告もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束はしていない。ただ、ちょっと人が少ない時や危険な箇所(階段前の扉)の施錠はしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、法令順守の研修で行ったり、自己評価シートに虐待についてのチェック表をつけて自己評価している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っている。説明はしているつもりだがやはり、後から質問されることもあるのでわかりにくいところは時間をかけて説明しなければいけないと思った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで面会できない日々もあったが、現在は、面会できるようにしている。その為、直接意見・要望も聞けるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の様々な経験を活かし、月初めの職員会議で意見を出し合いみんなで協力し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得にも積極的に進め、今後の給与の見直しも含め検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等は進んでいけるようにしていたが、最近では人員不足でなかなか派遣するのが難しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉士会や、他の団体との関りも大きいので様々な会議等で交流を深めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の希望等に耳を傾け、すぐに対応できることは対応している。時間がかかることは職員間で相談し合い、出来ることはやっているが人員不足で難しいこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初期段階で話をきいているが、家族の面談がコロナでできない状態が続いており、なかなか意見を聞くことも難しく、リモートでの面会も進めているがなかなかできていない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前より、意見を言う入居者様の数が減っている。職員間の見方で判断することが増えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは行ってもらっている。職員の指示が必要であるが一緒に行うこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と一緒に、入居者様の銀行や郵便局などに行ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までは面会で、元教え子や近所の方が来ていたが、今はコロナの為、来れないので難しくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場として一緒に話たり、行動することが多々ある、入居者同士で仲良く協力し合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長引く入院等で対処した場合は、次の行き先を相談したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と、入居者様の会話する時間が増え、意向調査等していたが、人員不足でなかなか時間が取れない。本人と相談して行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の職業等を把握し、できることは行ってもらったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることは行ってもらい、職員の指示等で行動してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に確認したりしているが、先に、職員と本人とで作成し、確認することが多い。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基に毎日実施記録を書き、月初めの職員会議で話し合ったりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で、難しいことが増えているが、できることは対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会の方を後見人になっている方もおり、その方は話し合いになっていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は、往診対応と、看取りを行ってくれる先生にお願いしており、必要時は受診前に連絡し、受診の有無を確認してから受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師が職員にいますので相談しな柄対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院のソーシャルワーカーさんと連絡を取り合い、対応している。入院時にこの期間は明けとけるというような期日も事前に伝え対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	佐々町のグループホームで唯一看取りを行うグループホームとして経験は豊富である。主治医と相談し、主治医からご家族様に話をいただいている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアル等は使用しているが、研修や訓練はしていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練等は行っている。消防署にお願いして、消火器を使った訓練や、通報訓練等は行った。オール電化の為、火は一切使っていないが、電気ストーブを使うこともあるので、他の安全な商品を検討したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについては何度も目についており、職員皆でその言葉遣いについてはどうなのか？とその場で言いあえるようにしている。言葉遣いは基本としてみんなで考えているがなかなか良くならないでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様といろいろ話をしていく中で聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアを目指してはいるが、スタッフ中心になっている感があります。一人ひとりのペースは大事にしているが、業務とのバランス等も考えて助言、介助はしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりがきちんとした身だしなみができるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に取り、介助しながら行ったりしている。食用が出るようにいろいろと工夫を行ったり、食器に工夫をしたりと考えながら行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は多めに行えている。希望者は夜間もベッド上に水分を提供している。食事は、朝は職員で準備しているが、昼夕は、業者さんが持ってこられたバランスのいい食事を温めて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはきちんとできている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本トイレ使用、お部屋のポータブルトイレを使用する方もいるができるだけトイレを使用するようお願いしている。夜間は、おむつやポータブルトイレを使用している方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や、運動と併せて内服などで排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回以上行えており曜日は決めている。人材不足の中、入浴を自由にすることは難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間はバラバラでほとんど本人様の状況や、希望に沿って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は正直わからに事が多いのでみんなで調べてみんなで勉強会を行ったりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外へ希望している方は外出を。希望する食べ物がある場合は、行事食として提供したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで遠出はできないので、近所のコンビニや外へ散歩等に行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を自身で管理できる方がおらず、職員が立て替えて行っている。お金の取られ妄想等もあり、お金を管理することが難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が来たらおつなぎしている。自身で携帯電話も持っている方もいる。お手紙等来た際は、本人に渡しているが一方通行である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	荷物を直す場所がなく、正直廊下など狭くなりご迷惑をおかけしている感は否めない。冷暖房や、明るさなどは入居者の希望に合わせて調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間を活用し、本人の希望に合った場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	においが気になる方は芳香剤を置いたり、本人が家から持ってきた写真などは、お部屋においていたりする。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	以前より、車いす使用者が増え、少し、狭くなっている。安全かという点、物などが多いので、危険な箇所はあるが、その分職員が目がよく行き届くようになっている。		